

## 平成23年度第2回 市長と語ろう「まちづくりふれあいトーク」

**開催日時** 平成23年7月12日(火)午後6時～午後8時

**場 所** 寿生活館

### (開会のあいさつ)

#### 【市長】

本日は、皆様このような時間をとっていただき、本当にありがとうございます。この市長と語ろうふれあいトークでございますけれども、子育てでありますとか、環境美化活動でございますとか、いろいろな活動をされている方とお話をさせていただくということで、その中でどんなものに取り組んでいる、どのような考え方で進めているのかということをお聞きし、少しでも良い形に持っていきたいという思いの中で進めさせていただいているところでございます。



やはり、皆さんのお話を聞くというのは、大変、大切なことであると思っております。私はずっと行政にいるわけではありませんが、どうしても政治の世界から物事を見てみると、1つの方向から物事を見ることが多くなります。行政は行政で、同じ視点で物事を見ていくような形になっていくと、どうしてもそこですれ違うということが発生してしまうわけでございます。1つのことを進めていく中で、試行錯誤していきながら進めていくという中で、さまざまなご意見をいただくというのは、より良い街づくりに向けて、大切なことだと思っております。

今日のテーマでございますけど、災害に強い地域づくりということでございまして、3月11日の東日本大震災では、この災害に対応する防災対策ということももちろんありますが、いろんなことを私たちに気付かせてくれました。

この釧路の中でもハザードマップを作りながら、津波は危険ですと、いろんな場面でお話をしてきたところでございますけど、今回のこの2.1メートルの津波によって、660棟の建物が浸水いたしました。また、フィッシャーマンズワーフMOOは、地下に電気、ボイラーがございまして、これが完全に止まって使えなくなってしまったということもございまして、総額32億円の被害があったところでございます。

こういった中で、幸いに人的な被害はなかったわけではありますが、さまざまな対応を行政としてもしてきたけれど、うまくいかなかったということがありました。それは、避難する方々の、推移一つ見てもそうでございます。地震があって、避難勧告を出させていただいたときには、600人くらい避難する方々がいました。しかしながら、皆さんがテレビで、名取市の方に行く津波の様子等々を見て大変だと思われたのか、それから1500人近く、避難する方が増えたわけでございます。しかしながら、その中で、一段落ついて夜になりますと、避難勧告、大津波警報が出ていたところでございますが、多くの方が帰

宅してしましまして、こういった部分をこれからどういう形の中で進めていくかをしっかりと情報提供して、この意識を高めていきたいと考えております。そういった中で、この地域の防災計画は今まで行政がさまざまな関係の機関の方々と専門的に議論し作って、皆様に提示をしていきながら説明してきたと思います。これがやはり、それぞれの方々の意識の低下というものを招いてきたのかなという思いを感じてきております。やはり、この意識を高めていくというのは、作られたものを、見て、やってくださいという話ではなく、一緒に作り上げていくというか、さまざまな情報を皆さんにお知らせする中において、それぞれの中で、考えていただくような形をとっていった方が、本当に災害に強く、減災という言葉に繋がってくるのではないかと考えている次第でございますので、私どもも、必要な資料などを積極的に提供していきながら、皆さんの意識を高めていく流れを作りたいと思っております。

もう一つ、被災地のさまざまな状況を見ていた時に、本当に地域のコミュニティというものがどんなに大事かということを痛切に感じたところでございます。私が市長に就任して、最初に問題だと感じたのが、町内会の加入率だったわけでございますが、前矢野連町会長、また現西村会長にも、本当にご尽力いただきまして、ずっと加入率5割を切っていたところを何とか止めることができたわけございまして、こういったものが本当に重要になってまいりました。

最後に、今回、要援護者ということで力を貸していただかないと避難することができない方々がありました。市役所の方で全部、ハザードマップの浸水区域になる方に電話をかけていって、そして、電話がつながったのが大体180軒くらいでございました。そこで、誰も来てくれないという方のところに市の職員が、当然、援護するために向かったわけでございます。向かって行って家に着いたときには、すでにはいない人がいました。いないということは、逃げるができたということですから、良いことなのですが、もちろん待っている人もいました。これは、防災という観点にとっては良いことなのか、悪いことなのかということです。津波というのが、大体30分、40分くらいで到達します。その津波の来る可能性のあるエリアの中で市役所から電話がいて、誰かが市から来てくれるから、待っているということは、本当は一番危ないことでございます。そういったときに公助というのは、どういう役割を持つのでしょうか。普段から行政が災害のときには対応するから、待っていようということでは駄目なのです。そういった中で、これからどのように構築していくかということが防災を考えるうえで、大きなポイントになりました。ですから、公助というのは、自助や共助である皆さんの連携を強いものにするためにあるのだと思っております。そして、緊急のときに公助がなかなか行き届かないという中で、いかに地域の中で皆さんの安心・安全な体制をまち全体で築き上げるかという課題も持っているところでございます。

今日は、皆さんのお話をお聞き、さまざまなケースを想定しながら、意見交換をしていく機会にしていきたいと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。また、課題等々もお話させていただきながら、有意義な時間にしていきたいと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。

## （自己紹介）

### 【参加者A】

コカ・コーラさんには子供たちを見守り隊で大変お世話になっておりますけれども、子供や高齢者の安全・安心をということで、愛と幸せのネットワークといって、橋北東部・西部地区の組織で、その代表という立場で出席をさせていただいております。よろしくお願いいたします。

市長からお話がありましたけれども、この3月11日の東日本大震災は本当に忘れられません。なぜかというと、その大震災の規模、あるいは被災者の状況をテレビや新聞で見て、その内容等々はもちろんですけれども、前日の10日の日は私どもの連町の矢野会長が亡くなった日なのです。そして、その3月11日の午後、観光国際交流センターにある私どもの事務所で葬儀の体制等について相談していて、午後3時40分くらいに大楽毛に向かったのですが、その後すぐ津波が襲ってきて、観光国際交流センターの近くまで水が上がってきたという状況で、本当に忘れられない大震災だと思っております。

そして、大楽毛で打ち合わせをした後に戻ろうとしたときには、ほとんどの橋が通行止めになっていました。私が住んでいる地域は、合同庁舎に避難することになっていましたので、私も自分の家を見ないで真っすぐ合同庁舎に行きまして、大変、対応がよくて感謝しております。この判断はどうか、後で問題になると思いますが、夜の11時過ぎくらいには、もういいだろうということで自宅に戻ったという状況です。

釧路市の高いところでは、昔の人は津波が来てもここまでは来ないということをよく話されていたこともあって避難率があまりよくなかったのです。去年、防災危機管理主幹をお呼びして2回勉強会をやって、北大の先生もお呼びして、地域で津波の勉強を計3回しておりますが、それでも私のところの会で言えば、避難率があまりよくありませんでした。それで、昔は砂浜の地域でしたから、なかなか波は上がらなかったのですが、今は岸壁なので、1度波が上がったら、勢いよく上ってくるのです。その怖さというのを、地域の人は見て感じたのではないかと思います。

### 【参加者B】

私は釧路で生まれて大学時代を東京で過ごした以外は、釧路にいますので、ほとんどの地震というものを経験しています。町内会では、避難ということに関して関心があまりなかったのですが、チリ津波があつてからは、やり方を少し変えまして、私や総務部長が分担して声をかけて回りました。家を戸一戸知っていなければそういうことは不可能ですが、町内会の総務の方と一緒にやりまして、チリ津波からは、大体40～50人集まるようになり、今回の場合は、60～70人くらいは集まったと思います。合同庁舎という非常に便利な避難場所ができて、地震があつたり、津波があつたりしたら、すぐ合同庁舎に避難するということは、ある程度、意識付けられたのではないかと思います。

ただ、反省としましては、先ほどの話にもありましたが、夜の11時～12時には自宅に帰ったということです。私たちの会はテレビを見ながら状況を知りつつも、大体6時くらいでみんな疲れてきまして、もういいだろうという話をしていました。そうしたら、また6時くらいに避難警報が出たのです。それでも大丈夫かなと言いながら年寄りを介助し

て、一緒に帰って行ったという状態でした。いろいろある反省の1つが、弱者の問題で、弱者の家を徹底的に調べておりませんでした。何人かは、歩けないとか病気であるということは知っておりましたが、そういう人がやはり置き去りにされたような形で、その人が市役所に電話をしまして、市役所の方で受け答えをして、その時にどう対応したかは、僕はわかりませんが、その辺を特に反省いたしました。釧路はそれほど大きな津波は来ていませんでしたから、やはり大したことはないという意識で、お年寄り、私は残ると言ってお避難しなかった方もいるということも後で聞きました。いずれにしろ、今回のことをいろいろ経験して、さらに勉強をしていきたいと思っております。

### 【参加者C】

3月11日の津波のときに、私は釧路中央小学校に避難しました。それで、車椅子で来られた方もいましたが、暖房も毛布もなかったので、これは問題かなと思いました。この辺の民間のマンションで、避難できると許可をいただいているマンションが何戸かありまして、そういったところにも避難しなければならないこともあるかもしれませんが、やっとの思いで逃げてきたのに、暖房も毛布もないとなると、せっかく助かった命も、例えば風邪で命を落としてしまうということになってしまうと、またそれも大変なことなので、例えば民間の建物を借りるのではなくて、中央小学校に避難した場合には、毛布をいくらか用意しておくとか、夏はいいですが、冬は暖房があればいいなと感じてまいりました。

### 【参加者D】

私が参加しております家庭防災推進員（家防員）の活動についてお話をさせていただきます。家防員の活動は、防災、防火は我が家からということでやってきまして、防災というよりも今までは防火が主で、我が家からは絶対に火災は出さないということで活動してきていましたが、今回、こういった災害がありましたので、防災についてもこれからは勉強していかなければならないと思っています。そして、3月11日の災害の状況をテレビなどで見ていると、人の輪、絆の大切さを大変実感させられましたので、絆を強めて家防員の活動をしていけたらなと思っています。

### 【参加者E】

こちらのすぐ近くに職場がありまして、地域の企業ということで今日、参加させていただきました。3月11日の震災については、弊社も50台程の自動販売機が津波の被害に遭いました。そして、何より事業所の建屋が、避難勧告の対象地域にあるものですから、私どもも警報が出たときには従業員全員で避難いたしました。窓からすぐ港が見える位置にありまして、建屋そのものに被害はなかったのですが、改めて津波の恐ろしさを今回の件で実感しました。弊社は釧路市さんと防災協定という形で締結させていただいております。日頃、自動販売機を通して文字情報でいろんな防災情報を流していただいたり、あるいは、私どもは飲料会社ですので、災害が発生したときには、いち早く水を供給したりすることも協定の中で踏まえていまして、今回も浜中町さんも含めて釧路市さんはもちろんですが、水を運びました。

今後については、地域にある企業として、町内会の皆さんとはもちろん、先ほど、蝦名市長からもありましたように、コミュニティーの繋がりが希薄になってきているということも踏まえて、我々も地域の一員として何らかの形でお役立ちできるかなと思っています。ですので、津波の避難も含めて、先ほどもお話に出ていました一人暮らしの高齢者だったり、そういう方を連れて一緒に避難したりという方法もとれないものかと考えています。地域の企業も人数がいますので、その中で連携的にできればという思いを持っています。

#### 【参加者F】

非常に身近な話で、震災のあった直後から、弊社は営業の会社なので毎日お客さんの所に訪問してまして、震災のあった直後の1週間くらいは、怖かったとか、こういう被害があったという話がほとんどだったのですが、1週間くらい過ぎてから、災害があったときはどこに逃げるかという話が出るようになって、自分で避難する場所を各自見付けていくという話になりました。その後、では、どうやってそこまで逃げるかという話を皆さんされていて、車で逃げるだとか、自転車がいいのではないとか、具体的に逃げる場所から逃げ方までのシミュレーションができてきていると思いました。ただ、そういう情報が行き交わないという人もたくさん見るので、そういう方たちにどうやって、シミュレーションのような情報の共有化ができるのかということをお客様の話聞いていて思ったところでございます。ですから、普段から情報のあまり行き届かないところだとか、避難することをかたくなに拒んでいる方にどのように情報を伝えていくかということがこれからの課題だと思いながら、取引先の方などと話をさせていただいています。

#### 【参加者G】

地震の件ですが、僕は避難しませんでした。簡単に考えていました。今までずっと釧路に住んでいて、津波が来ると言ったら津波が来たことはほとんどないので、来ても1階部分で、2階に上がっていれば大丈夫だろうと考えていました。ところが、後でテレビを見てびっくりしました。1階まで来るということは、家がそのまま流されてしまうということなのです。本当にこれにはびっくりしました。だから、これからは必ず避難しようと思いました。

それと、釧路大橋を走ったときに、ここは駄目だと止められました。左岸通りの方に行きなさいと言われたのです。あの対応はどうかと思いました。警報が鳴ったばかりというときは、とにかく優先して車を走らせた方がいいと思います。通行できたのは、貝塚大橋くらいだと思いますが、交通渋滞のもとだし、かえって詰まってしまうので、避難にならないと思います。

#### 【参加者H】

頓化（とんけし）に長年住んでいますが津波が来たことは今までありませんでした。ところが今回の地震で津波が近くまで来たのです。それで、今回は避難しなければならないなと思いました。それまでは、浪花町のこの頓化という言葉は、アイヌ語で小高い丘という意味で、津波は来ないと思っていました。津波があったときに町内会で不幸がありまして、副会長と総務部長とお通夜に行くことになっていました。だけど、これは晩まで待て

ないと早くお通夜に行って、すぐ帰ってきたのです。そういうこともあって、私は今回、避難しませんでした。ですが、ほとんどの人が避難していました。私は3年、会長をやっていますが、合同庁舎には今まで避難できませんでした。国の建物だから駄目ということでした。国の建物だから、国民を救うために開けなきゃならないのではと思っていましたが、最近、いつからなのか良くなったわけです。私たちの町内会は人数が少ないけど、年寄りが多いのです。しかも旦那さんが亡くなったご婦人の方が多いのです。近いから避難できると思いますけど、なかなか大変だと思います。だけど、会長としてそういうときは手伝わなければならないと思っています。

それと、橋を渡れないということですが、どうして橋を渡れないのでしょうか。避難しなさいと言うけど、橋が渡れなければ逃げられない。だから、釧路で高いところに逃げると言うのであれば、山の上しかない。それなのに橋を渡れないというのは、橋が落ちたのであれば仕方がないけど、橋があるのに渡れないというのはどうしてなのか、市長にここで質問としてお聞きしたいと思います。

#### 【参加者I】

私は民生委員をやっています、ちょうど地震のときに、一人暮らしのお婆ちゃんが亡くなって1週間以上経っていたのです。それで私も関わっていたので、町内会長と事務局長にいろいろ相談したりして、お通夜に一緒に行ったりしたのです。そうしているうちに避難するかどうするかを町内会でいろいろ相談して、各自、避難した人はいたのですが、私のうちは娘が2階に逃げれば大丈夫じゃないかと言うので、軽い気持ちでいました。遅くまで消防の近くでも避難の広報が入っていましたが、私も避難しないで家にいたことを反省しています。次の日、近くまで水が来ていて、震えが止まりませんでした。1メートルも高い津波が来ていたら、うちの方にも来てしまっていたと思うと本当に反省です。こっちの方は高いという昔の話も、安心はできないと思いました。そして、一人暮らしで高齢者の方はたくさんいるので、一人助けて、一人助けないってこともどうなのかと迷ったりして、なかなか難しいところがあると感じている次第で、自分自身も主人を亡くして、高齢になってきていますから、自分で逃げるのも精一杯だと思っておりますので、いろいろ反省しております。

#### 【参加者J】

私どもは市の方から災害避難支援協働会の立ち上げについて話がありまして、寿と宝浜と最初は頓化全部と思ったのですが、なかなか足並みが揃わなくて、市の地域福祉課の方から要請を受けまして、何とか海沿いの方だけの町でもやってくれないかということだったので、できるところで、寿と宝浜であればすぐ立ち上げられるということで寿と宝浜で立ち上げたのですが、逆に小さかったから動きやすかったのです。一番、最後に立ち上げましたが、避難訓練までもっていくのに一番早かったのです。私のように仮に手が空いていてもなかなか手伝いに行けないし、隣近所でやっていくのがいいのではないかと考えております。

3月11日の震災の時には、すぐに市から連絡が入りました。対象者は12人くらい

たましが、亡くなった方もだいぶおりますので、現在8人程度ですけれども、今回は4人の方が対象となりまして、中央小学校へ連れて行きました。私たちは、やはり50年間隔の大津波が来るということで、足の弱った方であれば、1分でも早く逃げ込めるようなところを確保した方がいいのではないかということで、民間のビルのオーナーの協力を得て、釧路で一番先に民間同士で協定を結んで、そこに行けばいいとなったのですが、そこには住人が住んでいますから、当然オーナーとしては住民の了解を得ないとトラブルのもとになりますから、そういうことでオーナーがきちんと対応してくださって快く理解して協定を結びまして、先日は7人程避難しておりました。

第一に考えるべきことは、地震の後には津波が来るということです。ですから、先ほどからお話に出ています、橋が落ちる可能性もあるわけです。車で逃げたって、橋が落ちただとか、橋が落ちなくても渋滞してしまったら、渡れません。

先日、防災危機管理主幹に、なぜ、橋を止めるかということをして市として、もっとPRしなきゃ駄目ではないかと自分の考えを話しました。車は少し水をかぶっただけ流されてしまいますから、そういう思いをするよりも、3階、4階などの高いビルに逃げ込むような方向にした方がいいのではないかと考えております。

先ほども指摘がありましたが、私の町内会で、津波があった3日後くらいに要援護者が亡くなったのです。寒くて風邪をひいたのではないかと考えていまして、これは私の想像なので定かではありませんが、そういったことがありましたので、弱者や具合の悪い人には避難場所に温かい所を用意してほしいと要請しましたところ、本部の方で温かい所を用意してくれることになりました。

最後に、地域のためとしてはやはり、中央小学校について説明が必要だと思います。1



5メートルもまともに津波が来るとは考えていませんけれども、10メートルくらいは、少なくとも考えていただかないと、10メートルといったら3階くらいの高さで、中央小学校は3階建てなので心配になります。屋上はありますが、屋上となると冬は寒いですし、実際に津波がくるとなるといられませんので、対策が必要だと思っています。

#### 【参加者K】

今まで前会長がずっと町内会のことをしっかりやってきていたので、私たちはほとんどお手伝いしてなくて、こういう防災とか避難というのは、ほとんど関わったことがありませんでした。自分のことを言いますと、テレビで見て大変だと思ったのですが、釧路に関する情報というのが、2メートルまで津波が来るような雰囲気でもないということだったので、私も十勝沖地震を小学生のときに経験していますが、あのときでも津波は来なかったもので、津波が来ても2階に行けばいいだろうと考えていました。我々の地域は比較的、

高いところだということで、津波には強いという説明を前に聞いていましたので、少し安心していましたが、個人的には、これだけの災害を見まして、やはりこれは油断しては駄目だと思いました。

3月11日に大震災が起きまして、すぐ日曜日が私たちの町内会の役員会でしたので、防災担当の部長さんに地震のときの避難について聞きましたら、やはり高齢者で要介護の方の避難というのは大変で、すぐに一緒に連れて歩くのは難しいということで、町内会としてのシミュレーションを作ること検討しております。それで、地区連の要旨を見ましたら、高齢者福祉という欄の今年度の計画に緊急連絡カードというのがあって、こういったものは大変有用だと思っています。災害時要援護者の安否確認、避難支援は、先ほどのカードなどをもとに、いろんな団体と煮詰めてやる必要があると思っています。我々も地域の課題として防災対策の認識を強めて災害時にはみんなと力を合わせて事故なく避難できるようにしたいと思っています。

#### **（質疑応答）**

##### **【参加者H】**

3月11日の震災当日、なぜ橋を通行止めにしたのでしょうか。

##### **【市長】**

まず、行政には管理責任があることを考えてほしいと思います。4～5年前、十勝で大雨が降ったときに橋が流されました。その橋を通行止めにしていなかったために、橋を通っていた車も流されてしまい、橋の管理者である北海道の対応について、何をやっているのかという議論がありました。つまり、国や北海道、市の管理者は、安全の確認や確保をせずに人や車を通行させたとなると、何かあった場合、その責任は管理者の責任になるのが今までの流れです。

そのため、大津波警報が発令されたときは、安全を確保するために橋を通行止めにするのが基本的な考えとなっています。今後、しっかりと話をしなければと思いますが、橋の通行止めをどう考えていくかというときに、自己責任で逃げる場合には橋を通すことも考えなければならないのかなと思います。見方を変えると、通行止めをするには、その場所に人が行く、あるいは居る場合、その人は津波が来たらどうするのかという議論もあります。これが今の大きな課題になっています。

##### **【参加者H】**

近所で集まって話をしていたときに、なぜ、あの地震のときに橋を通行止めにしたのかという話が出ます。市長がおっしゃるとおり、十勝の場合は車を通したわけですから。

##### **【市長】**

今回の地震では6mという大津波警報が発令されたことが、対応に大きな影響を与えています。

**【参加者G】**

幣舞橋は通行止めも仕方ないと思いましたが、釧路大橋は高い場所にあるわけですから、車を通してもいいと思いました。

**【市長】**

安全な方を選択するのが今までの流れです。少しでも懸念されることがあるならば通行を止める方向になっているという感があります。

**【参加者G】**

道路が渋滞して大変だったという話を聞きました。

**【市長】**

鶴居方面に行こうとしていた車が多かったので、西港前の臨港道路も大渋滞になっていました。そうした点も踏まえて、皆さんの安全を守っていくためにはどうしたらいいかを考えているところです。

**【参加者A】**

大きな地震が発生した後は、管理者では橋の強度等のチェックを行うのですか。

**【防災危機管理主幹】**

橋は完成した年によって、また、どれくらいの車が通行できるかなど、いろいろな基準があって設計していますので、それぞれ強度が異なります。今回の津波を受けて、国、北海道、市の道路管理者が集まって、それぞれが管理する橋の津波や地震に対する強度について検証を始めていますので、それによって強い橋、弱い橋が明らかになってくると思います。そういう考え方も入れながら、今後の対策を検討したいと思っています。

**【参加者A】**

仕事などで中心街に来ている人も多いと思います。そうすると災害が起きたときに、例えば、幣舞橋が通行止めになると、そうした人たちは帰宅することができません。また、その地域に住んでいる人ではないので、どこへ避難したらいいのか分からないという問題があると思います。これからは、市内のどこにいても避難場所が分かる情報があった方がよいと思いました。

**【市長】**

そう思います。自分の住んでいる場所以外で働いている方が多いでしょうから、災害が起きたときには、どこへ避難したらいいのか分からない方もいると思います。ですから、避難場所を知っているということが重要になります。これは観光客にも言えることです。

**【参加者F】**

私どもは自動販売機事業を行っていますのでご紹介しますと、この地域には77台の自動販売機があり、このうち屋外設置のものが31台あります。年間利用者数は延べ9万人です。こうした自動販売機にメッセージ機能を持たせて、例えば、この地域の避難先は合同庁舎ですといったメッセージを表示すれば、自分の住んでいない地域にいても避難場所が分かると思います。自動販売機を利用した時にメッセージ表示を何気なく見てもらって、この地域ではどこに逃げれば良いということを普段から確認できれば、いざというときの避難に役立つと思いますので、そういった部分で協力できればと思っています。

#### 【参加者A】

ここへ避難すれば大丈夫と分かる情報を企業や官庁等が提供してくれると良いと思います。

#### 【市長】

そうですね。避難場所の情報を目に付くようにする仕組みを考える必要はあります。

#### 【防災危機管理主幹】

お話いただいた災害時の避難場所については、皆さんから非常に多くの意見がありました。先ほど市長からお話がありましたように、地域防災計画の見直しの中で、津波の避難計画を中心に、市民の皆さんにご参画をいただきながら計画を策定していきたいと考えています。特に今回被害を受けた橋南地区、橋北の錦町、旭町界隈、それから先ほどお話がありました浪花町周辺、今回の地震で直接の被害はありませんでしたが、海に面した大楽毛地区の住民の皆さんと、過去や今回の津波の状況を示しながら意見をいただいて、避難計画を立てる取り組みを今年中に行っていきたいと思っています。第1回目は7月19日に橋南地区の大町、入舟地区で行い、それから順次、各地区で行いながら地域の皆さんと一緒に避難場所について考えていきたいと思っています。

#### 【参加者J】

外国人観光客の誘致にも力を入れていると思いますが、避難場所の周知などは外国人にも分かるようにパンフレットで周知するなどの工夫も必要だと思います。

#### 【総合政策部長】

現在、在住外国人には、住民登録時に災害時の行動マニュアルのパンフレットをお渡ししています。今まで言語数は少なかったのですが、多言語化を図っています。また、国際交流のボランティア団体の方たちも、災害用のマニュアルを作成して、配布まで行っています。どこまでやっても十分ということはないのですが、しっかりと行っていきたいと思っています。

#### 【参加者J】

地域として要援護者はチェックしていましたが、災害避難支援協働会ができたことで市

から要援護者の情報が提供され、町内会に入っていない方たちも支援できる体制になりました。安全で安心して過ごせるために、これから地域の皆さんと相談していききたいと思います。

#### 【参加者A】

今の話に関連しますが、家族などの連絡先をあらかじめ記入して家の中に保管しておく緊急連絡カードがあります。社会福祉協議会が作成したもので、連合町内会と民生委員の三者で広めようと、現在啓発活動を行っています。

#### 【参加者J】

災害避難支援協働会では、市から要援護者の資料をもらっていて、その情報が非常に助かりました。というのも、以前、身寄りのない人が亡くなったときに、市からもらっていた資料を見ると、離れた地域に兄弟がいて、すぐ警察に話をすることができました。こういうものが本当に必要になってくると思いました。

#### 避難施設について

##### 【市長】

合同庁舎は、今までのさまざまな震災の影響を検討された結果、津波緊急一時避難場所になりました。災害が起きたら何よりも守らないといけないのは人の命です。そこにしっかりと対応していこうという流れがあり、大変ありがたい対応をしていただいたと思っています。

#### 【参加者B】

我々は幸町に住んでいますが、周辺の避難施設は合同庁舎の他に釧路プリンスホテルや釧路全日空ホテルといったホテルがあります。それ以外に、北大通にはたくさんホテルがあります。そういったところにも緊急時には避難できる契約のようなことを市として結んでおいたほうがいいのではと思います。

#### 【防災危機管理主幹】

平成6年に、釧路沖地震の反省も踏まえ、市内の施設規模の大きな7つのホテルと協定を結びました。避難住民の受け入れは24時間体制です。先日の津波の際に、多くの避難者を受け入れたホテルは52人を受け入れた釧路プリンスホテルと、54人を受け入れた釧路シーサイドホテルです。大体100人以下の収容に留まっていますので、現在のところ協定するホテルを増やす考えはありませんが、これから地域ごとに開催するワークショップで再度議論させていただきたいと思っています。ホテル側の了解も得ないといけませんので難しい部分もありますが、24時間開いていて、なおかつ暖かい避難場所を持っているところとして、ホテルは非常に有効な場所と思っていますので、十分に検討していききたいと思います。

**【参加者J】**

各ホテルと協定を結んでいるのではなく、ホテルの組合とか団体と協定を結んでいるのですか。

**【防災危機管理主幹】**

協定は各ホテルと結んでおります。

**【市長】**

ある程度まとまった人数の受け入れをお願いすることになると思いますので、宿泊者用の部屋しかないホテルでは対応が難しくなると思います。

**【参加者D】**

避難者を受け入れるホテルの話ですが、避難解除になって、ホテルから出なければならなかったのですが、避難していた人の中に、足が不自由な人がいて、朝までホテルで休んでいたところ、帰る際に料金を支払うことになったそうですが、そういったものなのですか。

**【防災危機管理主幹】**

基本的に津波警報が注意報に変わると避難勧告は解除になりますので、その時点でホテルに入っている方はお帰りいただくということが原則になります。例えば、今回はまなぼと幣舞に泊まれた方もいまして、2日目の夜8時に避難勧告が解除になったのですが、既に泊まる準備をされている方がいたので、次の日まで滞在は延長させていただきました。市の施設であればそういった対応ができますが、ホテルの場合は営業ですので、そこを一日延ばして泊めていただきたいということは、協定でお願いするのは難しいところです。

**【市長】**

市役所では委員会室に避難された方もいましたが、会議室ですので横になって休む場所ではありません。総合福祉センターには柔道場があって畳の広間がありますので、そこで布団を敷いて休んでいただいてもという話をさせてもらいましたが、やはり人の多いところがいいのでしょうか、そこには行きたくないという意見がありました。命はもちろん大事ですが、その次の段階をどういう形にしていくかということについては、市民の皆さんにもご協力をいただけるような気運をつくっていきたいと思っています。

**【参加者C】**

誰かが声をかけて、先頭に立ってくださる方がいれば状況も違うと思います。先頭になってくれそうな元気な方に声かけをしてもらおうというのはどうでしょうか。

**【参加者A】**

町内会ごとに避難の仕方、シミュレーション等の作成をしているところはあります。た

だ、できていない町内会もあるので、これからの課題になると思います。それと先ほども意見にありましたが、宝町の方は高い建物やホテルがない地区なのです。

**【参加者G】**

仲浜町や宝町の住民は地盤が高いから津波は来ないと安心していています。今回の地震では、南浜町の消防本部から海運のセブンイレブンまで波が来ましたが、それより北側の地域には来ませんでした。

**【市長】**

ここまで津波は来ないだろうという意識が市民の皆さんにあると思います。消防本部も今までそういった被害にあったことがありませんでしたが、電気設備は重要なものですから3階に置いておこうという考えだったと想像します。今回の津波の際も、1階に駐車していた消防車等は市民文化会館に移動しました。MOOも市役所も地下に電気室やパイラーがあります。合同庁舎も免震構造で約100億円の経費で建設されていますが、電気設備は地下にあります。つまり津波が来るということは認識しながらも、対策はなかなか進まなかったという事実があります。それを良い悪いと言うのではなく、どうしようかと考えることが今やるべきことだと思います。

**【参加者G】**

釧路も大きな地震は何回も経験していますが、津波の被害はあまり無かったと思います。

**【市長】**

津波災害の歴史では、昭和27年の十勝沖地震で高さ2.67mの津波、次はチリ沖地震の際の2.3m、そして今回が2.1mです。

**【参加者H】**

十勝沖地震の時は釧路川の水が全部なくなって、川底が見え、海では大きな漁船が回転していました。

**要援護者の対策について**

**【参加者J】**

災害避難支援協働会などで、要援護者を避難場所まで連れて行く際に、一人だけ連れて行くならいいのですが、また、すぐに戻らなければならないのです。避難場所で小学校などには市の職員は何人くらい待機しているのですか。

**【防災危機管理主幹】**

2～3人です。

**【参加者J】**

私たちが要援護者を避難場所まで連れて行った後は、市の職員が3階まで連れて行くといったリレーのような体制があると、私たちもすぐに次の行動に移せるので、大変助かります。

#### 【市長】

災害時にはさまざまなケースが想定されるので、明確な体制をとることは難しいと思います。地域の人たちがバックアップできる体制が重要ですし、先ほども言いましたように、津波が来るのに、要援護者が30～40分も市の職員を待つことが果たしていいのかということはずっと考えています。

#### 【参加者G】

そういった人たちの状況は隣近所の人たちが一番良く分かっているはずですが、災害時には声をかけて一緒に避難するというのが一番だと思います。

#### 【参加者J】

災害避難支援協働会の例ですが、要援護者から電話が入ったら、すぐ2～3人がその人の家に行って避難をさせます。

#### 【市長】

そうやって地域の中で連携を取っていることはありがたいことです。市の職員は震度5強以上になると全員が市役所に集合することになっていますが、仮に集合した後、橋が通行止めになってしまうと、職員はどこへも行けません。そうであれば、人手が必要なところへ直接行った方がいいのか、ここの見直しも今後出てくると思います。

#### 【参加者G】

全員が市役所に集まっても仕方がないのではないのでしょうか。災害対策本部を市役所で立ち上げるにしても、関連する職員だけがいればいいのではないかと思います。

#### 【市長】

災害対策本部などからの情報を伝える人が避難所には必要です。その連絡はどのように取ればいいのかを考えた時に、地域に有効な情報を発信しているのは、例えばFMくしろがあります。それでは、避難所はFMくしろから情報を取るようになりませんか、逆に避難所から情報を発信するときはどうしようとか、これから本当にいろいろなことを考えていかなければなりません。こういうときはどうしようとか皆さんに話をしながら進めていくことが大変重要だと思っています。

#### 【参加者J】

私たちも時間に余裕があれば、例えば、一人暮らしのお年寄りを連れて避難することはできますが、余裕が無いときにそれができなくて、一生後悔することがあるかも知れませ

ん。人それぞれの事情があって必ずしも救出に参加できるわけでないので、要援護者の救出に参加している人員を増やそうかと考えています。

#### 【参加者A】

日頃から、共助というものを考えなければいけないと思います。先ほども言ったように、近所同士の付き合いを密にしていくとか、そういう仕組みも作る必要があると思います。



#### 【市長】

市内に要援護者が約800人、そのうち津波浸水区域にいる方は約400人です。また、65歳以上は4万6千人で、そのうち一人暮らしの方は2万1千人です。そういった人数は把握していますが、個人の対応はどうするかという問題があります。個人情報保護の観点からそういった情報を公開することはできませんし、その中で普段から地域で情報を収集することが大事になってくるのだと思います。

#### 【福祉部次長】

災害避難支援協働会は平成20年度から取り組みを開始しまして、モデルということで、寿、宝浜地区に作っていただきました。現在市内には8つの災害避難支援協働会があります。最近では単位町内会で作られていることが多いのですが、災害避難支援協働会は当然、町内会はもとより民生委員などのご協力もいただかなければなりません。ぜひ全市に広めていきたいので、よろしくお願いいたします。

#### 【参加者A】

災害避難支援協働会も市の援助を受けながら活動できるというのはありがたいことですが、市の援助を待つのではなく、日常的に町内会の中で災害時の要援護者の把握や、普段からその人たちに声かけをすること、誰かが避難誘導をするといった体制を町内会で作らなくてはいけないと思っています。

#### 【市長】

町内会も地区によって規模が違います。例えば、貝塚では約600軒で1つの町内会をつくっています。私は鶴ヶ岱に住んでいますが、隣の町内会はわずか4件で組織しています。ただ、自分たちのできることを町内会がやってくれるのであれば、市としてありがたいことです。

#### 【参加者G】

私の住んでいる町内会の加入者は、以前は300軒だったものが現在では83軒です。マンションに住む人が加入していない実態もあります。

#### 【市長】

現在、橋南地区は高齢化率が非常に高く、一方、文苑などは若い人が多いです。美原地区のことを振り返ってもらいたいと思います。美原ニュータウンができた時は若い人がたくさんいましたが、現在は高齢化が進んでいます。こうしたことを踏まえたときに、世代間交流ができる何かを行政と一緒に作っていくことが必要だと思います。

これからのまちづくりでは、どういう方法で世代間が調和できるかが重要になり、特にこの寿町周辺の地域は利便性の高い中心地にあるので、いろいろな可能性があると思っています。

#### 【参加者J】

今回の震災を受けて、防災マップの見直しは行うのでしょうか。

#### 【防災危機管理主幹】

現在のハザードマップは十勝沖地震と根室沖地震が同時に起きたという場面を想定しています。そのときに来る津波は4～13mの高さになり、釧路港に、満潮時5mの津波が来たときに浸水する範囲を示しています。当面変更の予定はありませんが、国や北海道が防災計画の見直しを始めていますので、さらに大きな地震を想定する必要がある場合は見直しを行いたいと思います。

#### 【参加者J】

今回の震災はマップのとおり浸水していましたが、もう少し高い津波が来た場合の浸水区域を示してもらえると、マップを見る人の防災意識も変わってくると思います。

#### 【市長】

東北での津波を踏まえて、これからは現在考えられている最大波の倍である10mの津波が来ることも想定する必要があるかもしれません。そうなるとハザードマップに示してあること以上を想定して避難し、たとえ浸水区域に入っていなくても大きな地震が来たらまず高いところに逃げるのが重要だと思います。ハザードマップは防災意識を高めるための目安として捉えてもらい、保障されているものでないことを認識していただきたいと思います。

#### 【防災危機管理主幹】

市長がお話したように、想定よりも大きな津波が来ることを心に留めておくことが大事です。今後、マップには避難場所に指定したビルの高さを表示することなどを考えています。

## （閉会のあいさつ）

### 【市長】

本日は本当にお忙しいところ、さまざまな意見を賜りまして誠にありがとうございました。また、防災における企業との連携ということで、北海道コカ・コーラボトリング(株)釧路事業所の皆さんも来てくださりまして、本当にありがとうございます。本日、ご参加いただいた皆さんは、地域のために日頃から活動いただいている方ばかりでして、こういった活動が一人でも多くに伝わるような取り組みを進めていきたいと思っています。社会生活の中で連携を取り合うことは何よりも大事なことと思っていまして、そういった観点を踏まえながら、災害に強い地域づくりを目指し、これから皆さんといろいろな場面でお話していきながら、皆さんの地域にかける思いを強くしていきたいと思しますので、これからもよろしくお願いを申し上げます。本日は誠にありがとうございました。

